

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172700649		
法人名	高山市福祉サービス公社		
事業所名	ホームきりう		
所在地	岐阜県高山市桐生町8-44		
自己評価作成日	平成21年7月28日	評価結果市町村受理日	平成21年10月23日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2172700649&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成21年9月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

少人数の割りに職員の配置が多いので、入居者様のペースでゆったり生活していただいている。ご家族と職員が両輪となって入居者様を支えることを基本にしているため、時間はかかってもご家族と連絡を密に取りながらケアを提供している。

本人が大切にしてきた生活環境の継続に力をいれ、家族から親族へ関係継続の輪を広げている。頻回な友人訪問や、ドリルで練習してからの年賀状差出等、細やかに支援している。常に見守りをする事によって入居者の思いを言葉がなくても汲み取り、食事、排泄などケアに生かしている。入居者は自分のペースで生活をしているが、その人の今までの生活環境を知る事により、部屋の明るさ調節をして生活リズムを変え、昼夜逆転をなくしている。またAED利用方法や口腔ケア講習、地域と一緒に災害時避難訓練など地元の人への声かけを行い、事業所の果たせる役割を果たし、入居者と共に地域の一員として生活している。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価票

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	楽しくゆったりとホームで生活していただくことを理念にしており、その理念に沿ったサービスを提供するよう努めている。	地域密着型サービスの重要性を理解し、事業所の管理者や職員が、入居者、事業所、地域とのつなぎ役となっている。この理念が実践される事により、本人のペースで家庭的な日々の生活が営まれている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敷地内には福祉センターや児童遊園があるので、自然に交流を行うことが出来る。また消火訓練を町内と合同で行ったり、親睦会に近隣の方を招いて顔見知りになり、散歩の途中に会話をするようになるなど日頃から交流を続けている。	立地条件を生かしての子供とのふれ合いや、介護予防教室での友人との面会等、つながりの場面を作っている。地域への発信として口腔ケアへの参加募集、AED講習等をし、事業所の出来る役割を担っている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉センター利用者と交流したり、ホームの親睦会に参加していただくことで認知症に対する理解を深めていただいている。利用者の友人も頻繁に出入りされる中で理解を深めていただいている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に1度の運営推進会議にはご家族や町内会長、班長、民生委員、市の職員、利用者等の出席でホームの活動状況や現状を報告し、質問を受けたり忌憚のない意見をいただいて、ホーム運営に反映させている。	毎年変わる町内班長と入居者や家族等、幅広い人材と変化のあるメンバーにより、いろいろな意見が、活発に話し合われている。そこでの意見を活かし、地域との連携を持ちながら防災訓練を行う事が出来た。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の案内や結果報告書等の書類は市役所窓口まで行き、直接手渡し報告や話し合いを行うなど、担当者とは連絡を密に行い協力関係を築くよう努めている。	市町村担当者を訪問し、法令の改正による疑問点や、事業所情報などを伝えている。また市町村側からも訪問し、スプリンクラーの設置について、実情観察する等、互いに行き来する協力関係がある。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアは職員全員が理解しており実践しているが、見る角度を変えれば拘束と捉えられかねない事例もあることを肝に銘じ、常に気を引き締めて取り組んでいる。玄関は夜間以外は施錠せず、安全のためチャイムがなるようにしている。	ベッドからの立ち上がり困難な人へ、立ち上がり補助の為にベッド柵を1本つける事についても、皆で討議している。近隣支援もあり自由な外出は出来る。出入り口はそれぞれドアチャイムの音を換え、施錠をしていない。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は虐待予防研修に参加し、復命する中で身体的虐待のみでなく、言葉による虐待、無視なども虐待に当たることを事例を踏まえ周知し防止に努めている。		

ホームきりう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	退所された入居者の方が日常生活自立支援事業を利用されていたので理解している。今後も必要と認められる方があれば積極的に利用したい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結前に見学をしていただき十分な説明を行って、納得いただいた上で契約を行っている。また、改定時はご家族に対して事前に説明会を行い、全員の了解をいただいた上で改定を行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	福祉センターやホームの玄関には苦情受付箱を設置いつでも苦情や要望を聞く体勢をとっているが利用実績はない。また、第三者の苦情受付機関の存在も玄関などに貼って周知している。ご家族との会話時にもその都度苦情や不満がないかお聞きしている。	事業所からは小さな事でも電話をかけたりして、家族との接点を多くし意見を聞いている。又、おりに触れ本人に意見を聞き、入浴内容を希望通りに変更し、運営に活かしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回開催する全体会議で職員の意見や提案を聞く場を設け、そこで出た意見を運営に反映させている。また随時気付いたことをノートに記入してもらい良い意見は運営に反映させている。	月1回の全体会議で職員意見をきいたり、『きずきノート』の中での職員意見を取り上げ、介護計画に活かしている。代表者や管理者は、いいやすい雰囲気心がけ意見を取り入れている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全体会議に出席し、職員の勤務状況を把握し、職場環境の向上に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会を平等にしており、復命の中で他の職員にも周知する場を設けている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回開催するグループホーム協議会飛騨支部会議で交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会を行っている。また、隔月には飛騨支部のグループホームを相互に訪問してサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族と共にホームを見学していただくことからはじめて、十分説明を行い安心し納得していただくことで関係作りを行っている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人と共にホームを見学していただき十分な説明を行い、納得していただいた上で契約をいただいているが、時にはご本人の居られない所でご家族の思いや困っていることを伺い、両者にとって最良と思われる方策と一緒に探ることで関係作りにとり組んでいる。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今一番必要な支援は何かをご家族と共に考え提供しながら、徐々に見えてくるご本人やご家族にとって本当に必要な支援を見極めて、ご本人にとって一番良いと思われる支援を提供できるよう努力している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	少しずつできないことが増えてきていても、人生の大先輩として入居者の方に教えられる事は多い。同じ仲間としてホームに居る時は喜怒哀楽を共にし、支えあえる仲間と思っている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、ご本人にとって一番大事なのはご家族であることを十分認識しており、職員とご家族はご本人を支える両輪との一貫した理念を持っているので、些細な事でもご家族に相談し、訪問していただく機会を作る事で絆が保たれる支援をしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人、親戚、近所の方などが気楽にホームに会いに来て頂けるよう機会があるたび声かけを行っている。お正月やお盆、ゴールデンウィークはもとより、随時帰宅したりご家族と旅行に出かける方や、食事や入浴に出かけるかたもおられる。	介護予防教室での友人との面会や、家族との連携を密にする事により、親族訪問へ発展していく支援をしている。ドリルなどで書く練習をしてから、家族友人等へ年賀状を送って、関係継続の為の支援をしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	人生経験が長い方ばかりなので、それぞれ自然に上手に関係作りをされているが、時としてうまくいかないもある。そんな時は話題を変えたり、声かけを行うなどの支援をしている。		

ホームきりう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もホームに来てくださるご家族もある。ホームからも写真や便りを送るなど関係を継続するよう努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向は把握するよう努めている。言葉で上手く表現できない方は表情や仕草で推し測ったり、職員同士の意見交換やご家族の意見を伺う等、本人本位の支援を行えるよう努めている。	性格から思いを口に出さない人には、食事の仕方から嫌いな料理を知り、個別に他の料理に変えている。また、伝える事が困難な人には、行動をよく見守ることにより、その人の思いを捉えている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や友人、近所の方やこれまでのサービス提供者からの情報で、生活歴や暮らし方の把握に努めたり、ご本人との日々の会話の中からもこれまでの暮らしの把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のケアの中で把握すると共に、ケア日誌や朝礼、気付きノート等で把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1ヶ月に1度開催の全体会議で職員と話し合い、3ヶ月に1度見直すケア計画作成時にご家族と話し合うことで現状に即した介護計画を作成している。また、ご家族の訪問時や電話で、その都度現状報告を行いご意見を伺っている。	2週間に1回の家族面会時に意見を聞き、会議の時に職員と話し合いを持ち、見直しを行い介護計画を作っている。また、急な変更には家族にその都度連絡をしている。しかし介護計画作成時、本人参加は無い。	本人も介護計画作成時の話し合いに参加され、よりよく暮らす為の課題とケア方法を一緒に探し、考える機会を作って欲しい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	シフト勤務なので情報の周知と共有には気を使っている。個々のケア日誌や気付きノートを活用して情報を周知、共有する努力をして介護計画の見直しなどに生かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の福祉センターのサークル活動に参加したり児童遊園で遊ぶ園児と一緒に過ごすなどサービスの多機能化に取り組んでいる。		

ホームきりう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や親睦会等に参加いただくことでホームへの理解を深めていただくと共に、近所の方や福祉センター利用者の方、各種ボランティアの方の協力で、安全で豊かな生活を楽しめるよう努めている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診や投薬はご家族がかかりつけ医にお連れして下さっている。急病の場合もご家族がお連れ下さっているが、どちらの場合も、ホームでの様子を詳しくお伝えしたり書類にして情報を提供し、適切な医療を受けられるよう支援をしている。	事業所での様子は文書にして受診時に家族に渡している。結果報告を看護師が受け、『きずきノート』と個々の介護記録に2重に記入する事により、全職員の情報の共有を徹底している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師がいるので随時気付きや情報を伝えて相談することが出来、適切な受診や看護を受けることが出来る		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と相談して緊急入院サマリーを作成し入院時にもスムーズに治療が受けられる体制を整えた。また入院されても安心して治療に専念し早期に退院できるよう、入退院時は医師と直接話し合いの場を持つようにしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、重度化されたときは設備面で入所継続が難しくなることを説明してあるので、皆さんは特養等に入所申込を済ませておられる。但し、重度化しても受け入れ先がない場合はその限りではないことも説明し方針の共有を図っている。	設備面から重度化対応への困難さを、早い時期から説明している。日頃からの細やかな連絡により、家族との信頼関係を築き、『ここにいたい』という入居者の声に答えようと事業所内で話し合いをする方針を持っている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	6月に「緊急時の対応」の研修を受け、受講できなかった職員へは全体会議で復命を行った。併設の福祉センターにはAEDも設置されている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練には地域住民にも参加していただき、いざと言う時協力していただく体制の構築に努めている。	近隣住民に避難訓練参加を、入居者と共に呼びかけに行き、参加をお願いしている。自動通報システムの設置により近隣住民や2階施設の人との協力体制を作り夜間想定訓練をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護の基本は尊厳を守ることだとの認識で、日頃からプライバシーを守り、言葉にも注意するよう周知している。全体会議の席上でも常に周知している。	入浴脱衣時に衝立の利用や、職員が居室入室時の声かけ等、プライバシーを大切にしている。居室での清拭時のドア閉めや、部分浴の場合は見守り位置に留意し、尊厳を大切にしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一日の過ごし方や服装、食事などはご本人が決めるよう働きかけているが、難しい時は少し助言して出来るだけご自分で決められるよう支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のおおよその流れは定着しているが強制するものではないので、自分で過ごしたいように過ごされている。その都度声かけをして意向を確認して支援をしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日自分で好きな服を選んで着られるし、美容院はそれぞれ行きつけの店を利用されている。季節ごとにご家族が服の入れ替えに來られる等、それぞれがその人らしい身だしなみやおしゃれが出来るよう支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事やお茶は、とすれば単調になり易いホームでの生活の潤滑油として楽しいものとなるよう、時には中庭で食事をしたり個人の好き嫌いを把握して形状を変えてお出ししている。準備や片付けは出来ることに参加していただいている。	好き嫌いのある食材も工夫で食べ易くし、個人のペースで食べれる様に、ゆっくりと語りながら食事をしている。その人の力に応じて出来る事を見極めながら、食事一連の動作を一緒に行っている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日のメニューは毎日記録し、個人の食事と水分の摂取量も記録している。その記録を元に状態を把握しご家族に連絡を入れたり、食事の形態を変えて食事量が確保できるようにするなどの支援を行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は口腔ケアの研修を受けその必要性を十分認識しているので、毎食後声かけをして見守っている。自発的にお茶の後にも行う方も居られる。就寝時には義歯を洗浄剤で洗浄している。		

ホームきりう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	パッド使用の方と夜間のみ紙パンツを使用されている方がいるが強制するものではない。職員は汚れないか定期的に確認を行なっている。個室にはトイレと洗面所があるのでそれぞれのペースで排泄をされている。	個別の時間に合わせて誘導し、トイレでの排泄を支援している。昼夜の下着を変えたり、入居者の家族に生活習慣を聞き、その人に合わせて、拒否感のない支援をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や食事での便秘予防を心がけている。すぐく気にする方にはカレンダーに排便を記録し精神の安定を計っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は一応決まっているがその時の状態に合わせて随時変更している。在宅時に入浴拒否が続いていた方も、ご本人の気持ちを大事に、入りたいと言われる時にすぐ入っていただくことを続けたところ、今では普通に入られるようになった。	入居者の希望に合わせて随時対応している。入浴拒否のある人には、無理強いする事なく、友人の協力を得て外部の温泉入浴を試み、信頼関係を築きながら入浴を可能にしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個室には洗面所やトイレ、押入れが2ヶ所と縁側が付いてゆったりとしており、一人ひとりのペースで安心して気持ちよく過ごすことが出来る。ご自分で内側から鍵をかける事も出来る。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の状況をよく理解した介護職員が薬の管理をしているが、他の職員へはその都度情報を周知して、どの職員も薬について理解しており、症状に変化があったときなどは速やかに連絡するようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を担う事は生活の張りにつながると思っているので、一人ひとりの出来る力にあわせた役割を作っている。また、歌やゲーム、散歩などを取り入れ気分転換を図ったり楽しみを感じていただける工夫をしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	歩く力に合わせて散歩をしたり中庭や裏庭でお茶を楽しんでいる。また、職員が何度もご家族と連絡を取る中で、ご本人と疎遠だったご家族との仲が修復され、一緒に外出される機会が増えた方もある。当ホームは日頃からご家族と外出される方が多い。	家族と一緒にでの外出支援や、一人で外出したい入居者には、近隣住民の協力を得て、職員が距離をおいて、見守っている。又、体力にあわせ散歩や、食材購入時の同行に誘う等の外出支援をしている。	

ホームきりう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を管理しておられる方と職員がお預りしている方がありますが、日用品の買物等はレジまで一緒に行ってご自分でお金を払われるよう支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	耳が遠いなどの理由でご自分から電話をかける希望はあまり無いが、希望されれば支援している。自分で文を書くことは非常に大事と思っており、きりうへにはご家族への一言を記入していただいている。年賀状も書けるようになった。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	市街地ではあるが広い敷地の中にある南向きの建物なので不快な音や刺激などは殆ど感じない。個室の窓からは自分で選んで植えた花を見ることが出来るようにするなどの工夫もしている。	居間を多目的に利用する事(事務室、台所、脱衣室など)により、常に人が集い、笑い、料理の匂いが漂い、生活感がある。廊下には、季節の花を生け、入居者の山や雲が見たいと言う希望に添うように、椅子を置く等工夫している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	少し狭いが日当たりが良く児童遊園を見られる廊下に椅子とテーブルを置き、気のあった仲間と過ごしたり、1人でゆったり外を眺めることが出来る場所を作り利用していただいている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室はご本人に自由に使っていただいているので、使い慣れた家具などを自宅から持ち込まれたり、趣味のものが飾ってあるなどご本人が居心地よく過ごせる工夫をしている。	畳での布団利用の人や、個別の暖簾、亡夫の写真等がある。又、自室トイレに『便所』と貼ったり、家族が帰る時はメモを残してもらい混乱を防ぐ工夫をし、居心地よい暮らしを支援している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な場所に手摺りを設けたり各部屋に名札を付けるなどして、各自が自由に安全に建物内を移動できるように工夫する事で、安全で自立した生活を送られる様支援している。		